

APU

立命館アジア太平洋大学

Ritsumeikan Asia Pacific University

PROGRESS REPORT

立命館アジア太平洋大学 プロGRESS・レポート
[2005年・春号]

特集：2004年度就職内定状況

国連専門家会議

ベンチャービジネスプランコンテスト



Spring 2005

Vol. 23

巻頭言

駐日インドネシア共和国特命全権大使

アブドゥル・イルサン



Abdul IRSAN

立命館アジア太平洋大学（APU）プロGRESS・レポートにごあいさつ申し上げることを、大変喜ばしく存じますと共に、APUが2000年4月の開学以来、教育的使命を遂行してこられたことに、心からの祝辞を申し上げます。

私たちは今、ボーダレスな世界に暮らしているからこそ、人権、平和、そして世界中の人々との異文化間コミュニケーションというような普遍的価値を包括的に捉えるという概念の構築は急務であり、実行に移すことに先んじて、その概念の構築を重要視していくべきです。

アジア諸国は、文化、歴史、社会、自然環境などにおける多様性から、様々な分野での開発において重要な役割を担ってきました。それは経済、文化、科学、国際関係など多岐にわたっています。そのようなアジアの特異性ゆえ、同地域の人々は確かに独特の視点を持っており、そのことが国際問題及び、地域社会問題に取り組む際に人々を鼓舞することにもなりました。

一般に、科学技術の発展は福祉と地方自治の改善に力を入れるためのものであるといえます。科学技術の発展は体系的に実行されることで、達成感、生産性、創造性などの可能性を探る基礎を築きあげていきます。科学技術の成功には革新的な文化の発展との呼応が不可欠であり、革新が必要だという認識に対し、いかなる場合にも責任を負う覚悟をもたなければなりません。

地域での複雑な問題に直面した場合、科学技術の専門家は国内においても海外においても進んで協力し合うべきです。地域社会からの予期せぬ妨害を避けるためには地方の独自性を考慮しつつ、健全さ、倫理的態度、社会的責任等のレベルを高く保っていくべきなのです。

これに対し、情報科学が民主社会において意義のある役割を果たしてきたことも、私たちは経験により知っています。情報科学は社会の発展に目を見張るほどの影響を及ぼし、さらに、アジア地域では各分野で、急速かつ複雑な変化を余儀なくされてきたことも確かです。アジア地域では大部分で、情報科学へのアクセスが手軽に行われているとはいえ、それに制限を加えている地域が存在するのも確かです。そういった地域の人々にとっては、それまでの生活をスピード社会に適應させることは困難でしかなく、むしろそういったことを望んでいないとすら言えるのです。

地方における卓越した教育機関として、APUは、母国での社会や科学の劇的な進化に直面してきた学生たちを常に育成、激励し続けてこられました。このことから、私はAPUが永きにわたり、社会生活の発展、地方の人々の平和と繁栄を一貫して担っていかれると心から信じています。更に、今後教育機関のモデルとなり、特に様々な地域での専門家たちの結びつきを強めるような存在となることを確信いたします。

最後になりましたが、教授をはじめ、経営スタッフの皆様が、地域社会のよりよい未来のため惜しみない努力をされていることに敬意を表し、私のあいさつとさせていただきます。

三洋電機株式会社 会長兼取締役会議長

井植 敏



IUE Satoshi

アジアスタンダードの実現へ

かねて「21世紀はアジアの時代」と言われた通り、世界の生産工場と消費大国を形成した東アジアが世界経済の中心になりつつあるなかで、私は、「中国、韓国と手を結んでアジアスタンダードを構築しましょう」と広く呼びかけています。

世界経済の課題のひとつは「産業のさらなる発展と地球環境保護」を両立させることにあるのですが、米国が京都議定書の批准を否定せざるを得ない現実が示すとおり、20世紀型のアメリカンスタンダードだけでは解決が困難なことが増えています。

一方、アジアは、「自然と調和して生きる」、「人を敬い、心と心の通いあう関係を大切にする」という「共生の思想」を共通認識として持っています。この価値観をベースとして、日本、中国、韓国がさらなる経済成長を遂げ、その過程で新しいビジネスモデルを創出し、アジアスタンダードに結びつけていきたい。01年以降、三洋電機が中国のトップメーカーであるハイアールグループ、スピード経営を武器に世界のIT業界で勝ち進んでいる韓国のサムスングループと提携し、技術開発や事業展開のコラボレーションを行っているのはその一歩です。

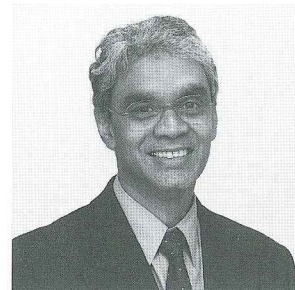
アジアスタンダードは、アメリカ、EU、それぞれのスタンダードとの共生を念頭において実現に取り組みます。時代の求める新しい事業の開発、産業と環境との調和はもとより、ITの分野でもアジア特有のヒューマンなソフトを開発するなどして世界経済の発展に寄与して行こうと、三社のトップの認識は一致しています。

アジアスタンダードの実現には優れた若い世代の力が欠かせません。立命館アジア太平洋大学に学ぶ人々の全身にみなぎる使命感と意欲的な国際交流の姿に、私は夢を大きくふくらませています。もとより私たちもさらに微力をつくしてまいります、関係各位のご理解、ご支援を願ってやみません。

新春のごあいさつ

立命館アジア太平洋大学学長
立命館副総長

モンテ・カセム



Monte CASSIM

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、素晴らしい新年をお迎えになられたことと拝察申し上げます。

立命館アジア太平洋大学（APU）は、アドバイザリー・コミッティの皆様方をはじめ、国内外の様々な方々の多大なご支援のもと、開学5年目が経過いたしました。

社会的な国際競争が高まる現在、大学もそれぞれが特色を出し、優れた実績を保證できなければ、厳しい状況となる「競争」の時代に入って参りました。このような国際競争の時代を生き抜くため、「自由」「平和」「ヒューマンイズム」の心を持ち、アジア太平洋地域の発展を築く担い手を育成すべく設立されたAPUは、現在75カ国・地域から約1,800名の国際学生と、2,300名以上の国内学生が集う国際大学となりました。また、第1期生の就職実績や文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムに2年連続で採択されるなど、着実に評価をいただいております。

このような幸いな報告をさせていただく根底には、皆様方の丁寧な助言と、温かいご協力を享受させていただいていることがございます。改めてお礼を申し上げます。

この間APUは、アドバイザリー・コミッティの皆様をはじめ、国際機関の方々、研究者にご訪問いただき、多くの豊かなご見識やご意見を頂戴いたしました。アジア太平洋地域のこれからは、健全な成長を続け、この地域の多様な文化や社会情勢を国際社会に伝える場として、APUが発展していくことができれば幸いです。さらには、大分県・別府市・地域の皆様との交流も日常的になることで、より社会に貢献し得る大学になると考えております。

現在APUに求められているものは、経済・産業・政治・文化の領域で多くの人材を養成すること、そして、世界で進行している経済統合や環境、安全保障の問題など、国境を越えた様々な課題に取り組む力をつけていくことであると存じます。

この観点で、APUは今後の取り組みとして2005年度から、これまでの実績を基盤としながら、さらに新しい取り組み「APUニュー・チャレンジ」という中期政策を打ち出そうとしています。「APUニュー・チャレンジ」では、情報通信技術、環境問題、観光産業、多文化共生、国際協力のあり方、健康・高齢化社会対策などを課題として取り上げ、創造性豊かな解決策を導く、学術交流拠点をつくらうとしています。

これからのAPUの目標として、以下の4点を中心に進めていきたいと存じます。

- 1) Excellence（卓越）……………優れた学術成果を管理運営上に生かす卓越性
- 2) Sustainability（維持能力）…財政的にも知識創造的にも、優れた人材の獲得で持続性を高める
- 3) Conviviality（共生）……………多様な文化が共生している大学環境を活かし、そこから生まれる創造性及び相互理解を活用する
- 4) Service（社会貢献）……………国際社会につながる社会貢献を、周辺地域から行うことができる大学を目指す

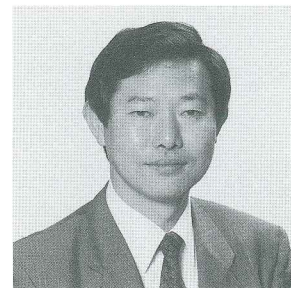
これらを重点に、「APUニュー・チャレンジ」を実現していきたいと存じます。これらのチャレンジを達成することが、世界で活躍する人材を養成することにつながるとともに、世界で生じている様々な課題を解決する糸口になると考えております。

これまでの皆様の支援に心からお礼申し上げますとともに、今後ともご教示・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。また、この一年の皆様のご健康・ご多幸を祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。

文部科学省

「特色ある大学教育支援プログラム」 に2年連続採択

立命館アジア太平洋大学 副学長
薬師寺 公夫



YAKUSHIJI Kimio

立命館アジア太平洋大学（APU）は、文部科学省の2004年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）の中の「英語で仕事ができる日本人の育成」というテーマに「Student Mobilityの推進」という課題で応募し、採択されました。APUは、昨年度「多言語環境における日英二言語教育システム」という課題で「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）に採択されております。2年連続の採択は、開学以来の先進的な教育システム導入と実践が評価されるとともに、国際的に活躍する人材養成のために本学に教学創造の一層の努力を期待するという激励の意味がこもったものとして、一層の教育の質の向上に励みたいと決意しております。

APUは学生の約半数を世界各地からの国際学生・院生とし、講義やゼミの開設も日本語と英語による教育を半々にするという二言語教育システムを採用してきました。現在キャンパスには75カ国・地域から約1800名の学生・院生が集い、日本人学生は、この多言語・多文化環境の中で国際学生と共に学習し、異なる文化・価値観への理解を深め、相互の議論を通じて切磋琢磨しあっています。「Student Mobilityの推進」は、このようなAPUのキャンパス環境と二言語教育システムを基盤としつつ、さらに専門的な知識・力量をアップし、これを英語運用能力と結合して英語で仕事のできる有為の人材を育むことをねらいとしています。

「Student Mobilityの推進」では、スキルとしての英語教育の質的向上、英語による専門科目の学習とともに海外学習プログラムの飛躍的展開を3本柱とする計画です。海外学習プログラムでは、交換留学、言語研修、フィールドワーク、海外インターンシップ、国際学生会議など正課・課外を通じてより実践的な海外学習経験の場を提供していく計画です。さらに大学が設置するプログラムだけでなく、学生自らが開拓した海外プログラムも大学が設定する基準をクリアすれば大胆に単位認定できる評価システムを導入します。APUではこの計画をニューチャレンジの重要な柱として位置付け、社会の期待に応え得る人材育成を行っていく所存ですので、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



特集 1

2004年度就職内定状況

立命館アジア太平洋大学は、2004年9月の卒業式をもって、開学初年度（2000年度）入学生が無事に卒業を致しました。

また秋卒業生を含め、2004年度就職内定状況は第1期生に引き続き好調に推移し、11月末現在、国際学生95.9%、国内学生95.2%、全体では95.4%となっております。

日本人学生をはじめ22カ国・地域からの学生の大半が国内の日本企業・外資系企業から内定を頂き、一部の国際学生が8カ国・地域へ新たなフィールドを求めて社会へ旅立つ予定です。

これもひとえにアドバイザー・コミッティの皆様をはじめ、各界の方々からいただきました貴重なご意見、ご指導の賜物であり、改めまして深く感謝申し上げます。

2004年度 APU学生 主な就職内定企業一覧（2004年11月末日現在・50音順）

* アサヒビール(株)	西日本旅客鉄道(株)	
* アデコ(株)	* ニチコン(株)	* 愛三工業(株)
* アメリカンファミリー生命保険会社	* 日産自動車(株)	アイシン精機(株)
石川島播磨重工業(株)	日本生命保険相互会社	* (株)あさひ
* (株)大分銀行	野村證券(株)	アビームコンサルティング(株)
オムロン(株)	(株)日立製作所	イオン(株)
オリックス(株)	* 富士通(株)	(株)伊予銀行
(株)カネカ	* 三井住友海上火災保険(株)タイ	* (株)エイチ・アイ・エス
関西ペイント(株)	(株)三井住友銀行	SMBCフレンド証券(株)
* キッコーマン(株)	三菱化学(株)	(株)オーイーシー
九州電力(株)	(株)村田製作所	大分キャノン(株)
* 三洋電機(株)	* (株)UFJ銀行上海支店	(株)オークワ
(株)ジェイティービー (JTB)	リンナイ(株)	オリックス・オート・リース(株)
(株)滋賀銀行	以上、APUアドバイザーコミッティ企業様	オリックス信託銀行(株)
* 住友商事(株)タイ		海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
住友信託銀行(株)		財団法人 休暇村協会
全日本空輸(株)		(株)公文教育研究会
ソニー(株)		クラリオン(株)
* ダイキン工業(株)大連		* (株)コトブキ
東急建設(株)		小松フォークリフト(株)
東陶機器(株)-TOTO-		* (株)コメリ
* 東レ(株)		五洋建設(株)
凸版印刷(株)		* (株)サトー



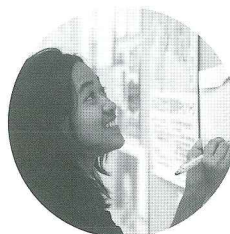
Informal job offers to second-rou



サンスター(株)	(株)ニトリ	(株)毎日新聞社
(株)CSK	* 日本インター(株)	マブチモーター(株)
シキボウ(株)	日本電産シバウラ(株)	* 三井化学(株)
(株)JALスカイ九州	* 日本電産リード(株)	* 三菱証券(株)
スター精密(株)	日本マクドナルド(株)	* 三ツ星ベルト(株)
スタンレー電気(株)	日本旅行(株)	(株)宮崎銀行
* 住友ゴム工業(株)	* (株)NOVA	明治安田生命保険相互会社
* 住友電装(株)	* パーカー加工(株)	(株)明電舎
* 住友電装(株)インドネシア	バイエル薬品(株)	矢崎総業(株)
* 住友電装(株)タイ	浜松ホトニクス(株)	ヤンセンファーマ(株)
* 住友電装コンピュータシステム(株)	(株)ビジネスコンサルタント	楽天(株)
ソフトバンクBB(株)	日立機電工業(株)	(株)リクルート
* ダイハツ工業(株)	* 日立建機(株)	* ロート製薬(株)
ダイヤモンドリース(株)	日立マクセル(株)	* YKK(株)ロシア
* (株)地域科学研究所	広島信用金庫	YKK AP(株)
鉄道建設・運輸施設設備支援機構	ヒロセ電機(株)	注1：2004年11月末日現在
(株)デニーズジャパン	(株)ファミリーマート	注2：* は国際学生の内定企業
テル(株)大連	(株)ファンケル	注3：1つの企業に複数の内定者が多数あります
(株)テレビ大分	* 古河オートモーティブパーツ(株)	
ドトールコーヒー(株)	* ベルネット(株)	
* (株)トライアルカンパニー	* (株)ホテルメトロポリタン	
(株)西日本新聞社	(株)堀場エステック	
日興コーディアル証券(株)	本田技研工業(株)	

注1：2004年11月末日現在
 注2：* は国際学生の内定企業
 注3：1つの企業に複数の内定者が多数あります

nd graduates



APU学生採用企業からのメッセージ

元気で明るく前向き、そして
グローバルな感覚を身に付けた
APU学生に今後も期待します

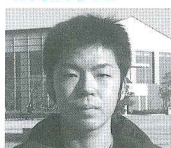


ニチコン 株式会社
人事部副部長 吉田 清

目まぐるしく発展し続ける高度情報化社会において、当社はアルミ電解コンデンサを中心に高品質、高信頼の製品を国内外に向けて生産、販売し、世界で大きなシェアを占めています。また、今年10月には11カ所目となる海外拠点を中国・天津に新設するなど、海外にも生産・販売の拠点を拡大しています。APUとの接点は、そうした背景から社内で「英語のネイティブ・スピーカーを採用したい」というニーズが生じ、いくつかの大学に申し出たのが始まりです。その際、どこよりも先駆けて迅速かつ丁寧な対応をして下さったのがAPUのキャリア・オフィスでした。送られた履歴書の数には2桁にのぼり、しかも学内で選りすぐられたであろう優秀な人物ばかりで、どの人物も捨てがたいと悩まされたほどです。一般的に、留学生の採用には在留資格から住居に関することまで煩雑な手続きがありますが、それらもキャリア・オフィスが主導して下さったおかげで非常にスムーズでした。もちろん日本人学生の採用でも同様のきめ細かさで我々の要望に誠実に応えて下さり、その結果、今年の秋に入社した外国籍の1名に続き、今年度は4名の日本人内定者を迎えることとなりました。無論、決め手は各学生の資質であることは言うまでもありません。

当社の主力製品であるコンデンサをはじめ、日本の電子部品はその品質が世界中で認められ、ナンバーワンの座を獲得しています。しかし、その中でさらに“オンリーワン企業”を目指す我々にとって、現状に甘んじず、常に先を見て新たな技術開発に力を注いでいくことが不可欠です。現に、当社ではマルチメディア時代の到来を見越して高周波対応の製品に早くから注目し、近年大きな実績を上げて参りました。また、国内外の事業所で「ISO14001」を取得するなど、“人と地球環境に優しい製品作り”も重大な使命と考え、実行しています。こうした取り組みに共感し、「今、この時に全力を尽くす」ことのできる人物、旺盛なチャレンジ精神をもって共に真のグローバル企業を目指そうという人物こそ、まさに我々の求める人材なのです。その点で、今回採用した学生には光るものがありました。我々の求める元気さ、明るさ、前向きさを備え、さらに世界各国・地域からの留学生と日本人学生が共に学ぶ環境で自然に育まれた、グローバルな感覚を身に付けていることも感じられました。グローバルな感覚とは、例えば言葉や文化の違いを障害とせず、同じ「世界人」の仲間と思える感覚、また言い換えれば、違いを知ったうえで自分の文化を押し付けず、相手の文化に染まることもなく、ちょうどいい関係を保てる感覚と言えるでしょう。需要と供給、いずれにおいても多国籍化の進む産業界において、当社のみならず、どの企業においてもこうした人材はますます必要とされていくのではないのでしょうか。今後もAPU学生の中から、未来のテクノロジーの担い手になるとういう気概を持った人物が、我々の扉をたたいてくれることを楽しみにしております。

●内定学生



APS
(日本)
城戸 岳志



APM
(日本)
久保 圭司



APM
(日本)
神山 拓也



APM
(日本)
松本 宜之

APU学生採用企業からのメッセージ

APUだからこそ培われた 積極性と協調性と兼ね備える 人材を高く評価します

富士通 株式会社

人事勤労部人材採用センター長 田籠 喜三



アドバイザー・コミッティに参加する企業として設立当初から関わっていることもあり、当社ではAPUに高い関心を寄せてきました。日本の既存大学にはなかった新しい国際大学をゼロから創出されたことだけでなく、大学と社会をつなぐキャリア・オフィスの皆さんの細やかなサービスは、他大学と明らかに一線を画しており、企業人である我々から見ても頭が下がるほどです。

そんな皆さんの力添えにより、今年4月、当社の選考会をAPUのキャンパス内で実施しました。その参加者約100名から絞られた4名（1名2004年秋入社）が今回内定の学生です。面接での印象は、国籍によって文化が違いますので一概に言えませんが、どの学生にも無数の選択肢がある中でAPUを選び、明確な目的意識を持って学んできた熱意とチャレンジ精神が共通していました。さらに驚いたのは協調性も非常に豊かであること。APUの学生は、他人との関係を大切にしつつ意見もはっきり言える、そのような印象を受けました。さらに言えば、チームワークやコミュニケーションの能力が高く、大勢で力を合わせて何かをやるための素質が育まれていると思います。また、新卒採用では将来の伸び幅を含めて人を見ていますが、今回内定の学生は一次面接で動機付けをすると次の面接までの間に特に努力してスピーディーに成長しており、将来の伸びにも期待できると判断しました。

当社における外国籍学生の内定者は、他大学では大半がエンジニアであるのに対し、APUの場合は文系の総合職。例えば海外現地法人での活躍など、幹部候補生として期待されていることも大きな特徴です。行政や金融のシステムに代表される、ありとあらゆるネットワークを支える技術を提供している当社にとって、リスクマネジメントは年々重要な課題となっています。小さなミスが世界の情報通信やライフラインに影響を与えかねないという社会的責任を負いながら、人々の生活の「最良のパートナー」をめざす我々は、「ひとたび掲げた目標に向けて、責任を持って最後までやりぬける人材」を必要としています。サークルなどの自主的な活動をハード・ソフト両面で支援し、フィールドワークなどの実践を重んじるカリキュラムが充実しているAPUでは、国際的な感覚だけでなく、「やりぬける力」を身に付けた学生が今後も多数育まれることと期待しています。

一方長期的には、アジア以外の国々からもより多くの留学生を受け入れ、さらなる多国籍化が図られることも期待します。それにより学生一人ひとりへの刺激も増し、国籍の壁を超えて切磋琢磨することで今まで以上の相乗効果が生まれ、ますます魅力的な人材が輩出されることを願っております。

●内定学生



APS
(日本)
吉田 麻梨亜



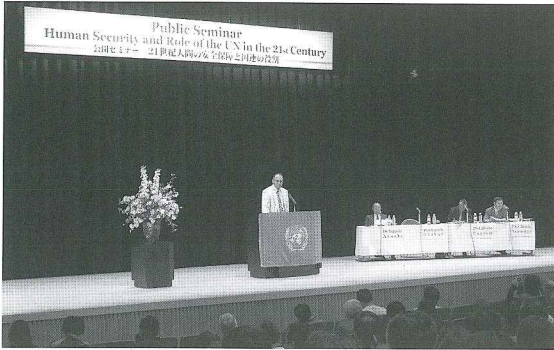
APS
(シリア)
HINDAWI, Safwan



APM
(スリランカ)
PERERA, Sajitha Chamara

特集2

国連専門家会議



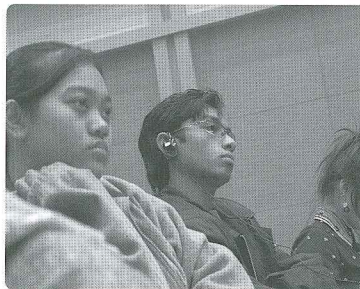
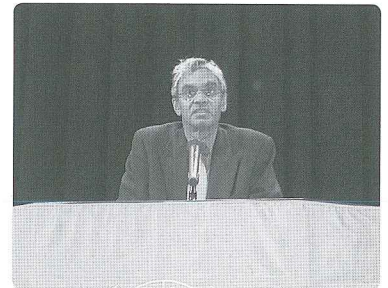
10月18、19日、APUに世界各国からの専門家が集まり、「国連専門家会議」が開催されました。学校法人立命館、国連大学、インターナショナルピースアカデミーとの共催で、「イラク危機と世界秩序」をテーマに、専門家のみ参加するクロードワークショップに加え、一般市民や在学生対象の公開セミナーや、学生代表によるプレゼンテーションといったイベントが行われました。また、ボランティアスタッフとして参加した学生もあり、数多くの専門家と交流できる好機となりました。

公開セミナー 10月18日 MON

18日には一般市民や学生を対象にした公開セミナー「21世紀人間の安全保障と国連の役割」が行われました。明石康元国連事務次長、THAKUR Ramesh国連大学上級副学長をパネリストに迎え、学生や市民ら約400人が参加しました。

基調講演で明石先生は日本を世界に開いていく必要性があり、その先端をAPUの学生が走っていると話された後、「現在国連は、多数決に従わない唯一の超大国からの試練、ドイツや日本などの新たな大国からの試練などにさらされているが、国連の持つ可能性を断念してはいけません」と聴衆に語り掛けました。

モンテ・カセム学長や薬師寺公夫副学長を交えてのパネルディスカッションでは、会場から鋭い意見や質問が飛び出しました。何人かの学生が英語で「国連はアメリカの外国政策に影響される中で、いかにして体制を維持できるのでしょうか」「人間の安全保障を、主権国家へ干渉せずに、いかに推し進めていくのでしょうか」といった質問をパネリストへ投げかけ、積極的に議論に参加していました。



元国連事務次長/立命館大学大学院客員教授

明石 康氏

APUの学生達は、日々多様なオピニオンに触れ、その何千何百というものの考え方を受け入れながら自分の考えをまとめ、日本の役割を決めていく力が自然に身に付く環境を持っていることが最大の利点です。そして非常に率直で質問をどんどん投げかけてきて、人懐こい。日本で最も良い大学のひとつだという印象をさらに深めました。

今回のシンポジウムに参加して、世界の問題はメディアで取り

上げられているように簡単な方法で解決できるものではなく、かと言ってその問題から離れて生きていくことはできない、ということを実感できたのではないのでしょうか。学生のうちからこうした問題の本質を正面から捉え、追求し、学ぶ機会があることは、職業人になってもきっと役立つでしょう。



voice

10月18日 MON

- クローズドワークショップ I
- 公開セミナー I 「21世紀人間の安全保障と国連の役割」
司 会：モンテ・カセム APU 学長
基調講演：(1) 元国連事務次長 明石 康氏
(2) 国連大学上級副学長 THAKUR Ramesh 氏
パネラー：明石 康氏、THAKUR Ramesh 氏、薬師寺公夫 APU 副学長
- ウェルカムレセプション

10月19日 TUE

- クローズドワークショップ II
- クローズドワークショップ III
- クローズドワークショップ IV
- APU 在学生対象イベント
「Maintaining the Peace in the Asia Pacific Area」
司 会：TE PUNGA, Mark APU 常勤講師
学生発表：(1) 「日本と国連の関係について」
(2) 「北朝鮮問題 (安全保障問題)」

APU 在学生対象イベント

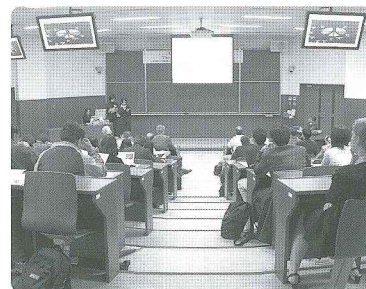
10月19日 TUE

19日にはAPUの学部生・大学院生で構成された2組がプレゼンテーションを行い、専門家を交えて討論する在学生対象イベントが行われました。

「日本と国連」をテーマに堀尾綾さん (APS3回生、日本)、藤野あかりさん (APM2回生、日本) がまず壇上に立ちました。模擬国連サークルの活動を通して学んだことなどを基に、「日本が国連常任理事国のメンバーになった場合、日本人の国連に対する意識を変えることができ、またアメリカの一国主義を破ることができるのでは」など主張。聴衆に向けてディスカッションを求めました。

また湯井雅志さん (APS3回生、日本)、SCUMPIERU Mihai さん (GSA1回生、ルーマニア)、VAN EGMOND Jesse さん (APS4回生、オランダ) は「北朝鮮と核問題」と題し、核拡散に対する楽観的・悲観的両方の見方を挙げるなどして発表しました。

双方のプレゼンテーションに対し、専門家を含む会場から活発な意見が飛び交いました。イベント終了後も会場に残って学生にアドバイスをする専門家も多く、最後まで熱気に満ちた雰囲気の中、APUでの会議は幕を下ろしました。



国連専門家会議 リエソンググループ 本田 香織さん APS4回生、日本



ゼミで国連と国際協力について学んでいることから、今回の会議に興味を持ち、参加しました。リエソンググループは秘書的な役割を担い、専門家に対して移動の誘導やAPUの紹介をする中で、直接言葉を交わす機会が多く、刺激を受けました。

話をしても最も印象的だったのが、私の将来について「目標を高くし、向上心を持って将来を探求していきなさい」とアドバイスを受けたことです。先生方のように世界の一線で活躍していきたいという思いを新たにしました。

国連専門家会議 プレゼンテーショングループ 堀尾 綾さん APS3回生、日本



模擬国連というサークルで活動してきましたが、「日本と国連」というテーマについて深く考えたのは初めてでした。「日本が国連安全保障理事会の常任理事国になったら、何ができるのか」という前向きな姿勢を重視し、サークルのメンバーと議論して作り上げました。専門家からは厳しい意見も出ましたが、豊かな専門知識を持つ方々と議論できたのは有意義でした。これで終わりではなく、興味を広げるきっかけになりました。

VOICE

VOICE

特集3

盛んなベンチャービジネスプラ

大学発ベンチャービジネスプラン コンテスト in OITAが 開催される

Venture business plan contest in OITA

10月16日、「大学発ベンチャービジネスプランコンテストin OITA」（主催 大分県・大学発ベンチャー創出実行委員会）の最終選考会が大分市内で行われました。このコンテストは、県内の大学等と連携して、大学生等が作成した独創的なビジネスプランを顕彰し、ベンチャー機運の効用と起業家人材の裾野の拡大を図る催しとして、今年度初めて実施されました。

県内の大学生・短大生から29件の応募があり、書類審査を通過した8件が最終選考となる2次審査へ進みました。審査会場では、ビジネスプランの実現性・公益性・優位

性・課題点について学生が発表し、審査員からは、プランを技術的に発展させるアイデア、実用化に向けたアドバイス、他社との競合が起こった場合の差別化についての質問、事業の舞台を大分とした場合の地域住民としての意見など、活発な質疑応答が行われました。

審査の結果、最優秀賞には大分大学経済学部の学生、優秀賞には2004年9月にAPUを卒業したZABALIUNAS Mindaugasさん（リトアニア）と、大分大学工学部の学生のビジネスプランがそれぞれ選ばれました。



ンコンテスト

第2回 立命館アジア太平洋大学 ビジネスプランコンテスト開催

Business plan contest in APU

11月10日、第2回立命館アジア太平洋大学ビジネスプランコンテストが開催され、応募があった8点のビジネスプランが発表されました。

日本語、英語でのプレゼンテーションが各4点あり、傘の盗難を防ぐための鍵や、有田焼の食器レンタルサービスなど、自己の経験やこれまでの学習を生かしたビジネスプランが出されました。それぞれのプレゼンテーションに対して採算性や独自性についての質疑応答もあり、学生たちは懸命にプランの良さをアピールしました。

審査の結果、特別賞に該当するプランはなかったものの、3点のプランに賞が贈られました。

1位には、炭酸飲料の炭酸が抜けにくく、軽量でごみの量が減らせるという伸縮性ペットボトルについてのプランを発表した池西亮さん(APM2回生、日本)ら5人が選ばれました。2位を獲得したのは、家電量販店への人材派遣業についてのプレゼンテーションをした中村雄大さん(APM4回生、日本)で、3位はSUN Liliさん(APM3回生、中国)ら3人の翻訳サービス "Raku Yaku" Computer serviceに決まりました。

表彰された3組はAPU-Club・国内学生父母の会の協賛

により、12月5日に北九州市で開催された「日本ベンチャー学会 第7回全国大会」にパネリストとして参加する権利を得ました。



Report

大学コンソーシアムおおいた開設

THE INAUGURATION OF THE UNIVERSITY OITA CONSORTIUM

留学生の総合支援や地域との交流促進を行うNPO法人「大学コンソーシアムおおいた」の開設式が10月12日、大分国際交流会館で行われました。

開設式には、広瀬勝貞大分県知事、安部省祐大分県議会副議長、栗山雅秀文部科学省高等教育局学生支援課長、安藤昭三大分県商工会議所連合会会長、そして大分県内の国公私立大学学長ら約200人が出席し、APUからもモンテ・カセム学長をはじめ代表学生らが出席しました。



「大学コンソーシアムおおいた」は大分県内の国公私立大や高専の計8校と、県・経済界の5団

体などで構成されています。今後は留学生の住宅保証やアルバイト紹介、健康相談などの生活支援や留学生人材情報バンクを柱とした地域活動支援等が行われる予定です。



体などで構成されています。今後は留学生の住宅保証やアルバイト紹介、健康相談などの生活支援や留学生人材情報バンクを柱とした地域活動支援等が行われる予定です。

Report

大分県と連携交流協定を締結

CONCLUSION OF A JOINT EXCHANGE AGREEMENT WITH OITA PREFECTURE

大分県と学校法人立命館、そしてAPUとのさらなる連携を図ろうと、11月17日、大分県庁において、「連携交流に関する協定」の調印式が行われました。

調印式には、広瀬勝貞大分県知事、川本八郎学校法人立命館



理事長、モンテ・カセムAPU学長が出席しました。まず、川本理事長より協定の趣旨についてあいさつがあり、その後、三者による調印が行われました。調印後広瀬知事より、「互いに発展していけるよう連携を深めていきたい」とあいさつがあり、引き続きカセム学長が「APUの学生の力を地域発展に生かしたい」と述べ、調印式は終了しました。



これまで、APUと大分県の間では様々な協力・連携が行われてきましたが、この協定を機に国際的に活躍できる人材の育成と地域の持続的な発展を目指し、学校法人立命館と一層緊密な連携を図っていくこととなりました。今後、観光や産業振興、県内の小学校などでの英語教育など幅広い分野での交流が促進されることとなります。

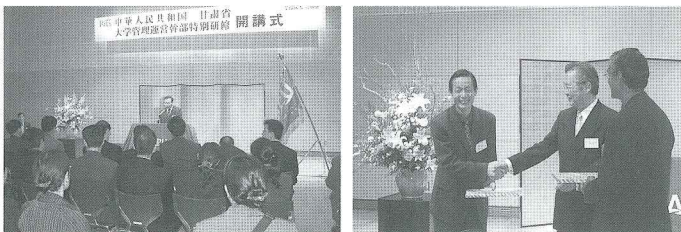
中国の大学管理運営幹部特別研修が実施される

SPECIAL TRAINING COURSE FOR MANAGEMENT EXECUTIVES OF CHINESE UNIVERSITIES

国際協力銀行が実施する円借款事業、中国内陸部人材育成事業の一環として、学校法人立命館が行っている「中国の大学管理運営幹部特別研修」が、APUと立命館大学で行われました。2004年8月30日から11月5日にかけて重慶市の重点10大学の副学長クラス30名を、また11月15日から12月25日にかけて甘粛省の5大学の幹部30名を受け入れ、それぞれ研修が行われました。

この円借款事業は、中国内陸部の18省162大学に対して校舎・設備等の整備支援事業と併せて、日本国内の大学が協力して中国の大学の教職員研修を日本国内で行うもので、学校法人立命館は、検討委員会を設置し中国の大学教職員の日本での研修に関して現地のニーズ調査等を行い、プログラム開発に取り組んできました。

最初の受け入れとなった重慶市のプログラムでは、APUにおいて、10月25日から11月5日にかけて研修が行われました。



坂本和一立命館副総長、モンテ・カセム学長、林堅太郎副学長、仲上健一副学長、西田宗旦副学長らが講師を務めました。また最終週には、研修生によるそれぞれの大学の将来構想についてのプレゼンテーションが行われた後、11月5日に学生ホールで修了式が開催され、長田豊臣総長から研修生一人ひとりに修了証と記念品が手渡されました。

甘粛省のプログラムはAPUから開始され、11月15日の開講式に引き続き、林堅太郎副学長や仲上健一副学長が講師を務めた後、11月21日に東京でのフィールドワークに向かいました。この特別研修は、引き続き各省の大学幹部を対象として実施される予定です。



重慶工商大学

黄志亮

HUANG Zhi Liang

副校長

(重慶市研修団 団長)

APUは、歴史は浅いですが国際的に大変高いレベルからスタートしていると思います。まず世界経済がアジア地域に移行している時期を敏感に察知し、立命館アジア太平洋大学という魅力的な名前の大学を創立した発想が大胆です。学長や副学長の講義で感じたのは、APUの開拓精神です。開学に際し、多くの教職員が10数カ国をまわって学生に入学を薦

めたことを聞き、感動しました。APUは確固たる個性を持ち、それを具体的な行動に結びつけることができているのが素晴らしいと思います。アジアでの高等教育の歴史に残る大学だと感じました。



渝西学院

藍刚

LAN Gang

副校長

APUの「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」という理念を高く評価しています。APUは「オンリーワン」の個性があると思いますが、私は「ナンバーワン」でもあると思います。

私たち中国の大学でもこれから如何に特色を出していけるか考えていなくてはならないと思います。少子化問題は中国でもこれから起こってくることであり、今後中国でも現在の日本のような大学間の競争が始まるでしょう。今回良いヒントを得て視野を広げることができました。経営管理理念や運営方法といった情報を私の大学でも生かしたいと思います。

第20回日韓学生フォーラムにAPU学生が参加

8月2日より16日まで、韓国（ソウル他）で、第20回日韓学生フォーラムが開催されました。このフォーラムは「語り続けた隣人—共に築く新たな未来とは」をテーマに、日本側から20名、韓国側から20名の学生が参加し、英語でのディスカッションを通じて、学生間の友好親善を深めるものです。

1986年3月の第1回フォーラム開催以来、毎年日本・韓国相互で開催されています。フォーラムでは、日韓両国に関する諸問題を広い視野から検討するほか、シンポジウムやフィールドトリップ、文化紹介やホームステイなど、日韓関係を築くために必要な相互理解を深めるさまざまな取り組みが行われました。

APUからは、以下の4名が参加しました。

- 寛野 沙知佳 (APS2回生、日本)
- 武藤 久 (APS2回生、日本)
- 安田 麻里枝 (APM2回生、日本)
- 山岡 歩 (APM2回生、日本)

フォーラム参加者は2003年12月から合宿や勉強会を行い、参加直前の8月2日まで直前合宿を行うなど、事前の準備



を重ねてフォーラムに臨みました。

参加した武藤久さんは、「他のフォーラムやシンポジウムと異なり、日韓学生フォーラムは学生自身が作り上げていくことに、深い意義を感じています。2005年の第21回のフォーラムも、実行委員会のメンバーとして参加します。国際情勢や社会が急変し、改革が進められていく中で、日韓がどう行動すべきか、学生同士の自由な対話・体験を通して考えていきたいと思います」と抱負を語りました。

キャリアディベロップメント講座でジェトロ渡辺理事長が講演

10月28日、キャリア開発の推進を目的とした正課の授業である「キャリアディベロップメント講座」の講師として日本貿易振興機構（ジェトロ）の渡辺修理事長をAPUへ



招聘し、「東アジアビジネス経済圏と日本—グローバルな人材とは」をテーマに講演いただきました。講演には250名以上の学生が出席しました。

講演で渡辺理事長は、東アジアにおけるビジネス連携の強化や対日投資促進の必要性を指摘され、「今後5年から10年の間に、東アジアにおける共同の経済連合体をいかに作り上げるかが日本の課題。外国の人材や技術、ノウハウなどを取り込みながら競争を促し、活性化を図る必要がある」と述べられました。

また、「コミュニケーション能力」「相手の立場を考えるゆとり」「チャレンジ精神」を備えた人材が求められると語られ、学生は熱心にメモを取りながら聴講しました。

APU就職支援交流懇談会開催

APU 就職支援交流懇談会 ～がんばれAPUの後輩たち～



10月23日東京オフィス主催で、首都圏のAPU・立命館それぞれの校友会有志に來学いただき、就職活動を控えた3回生を対象とした「APU就職支援交流懇談会」が開催されました。

会では、就職が内定した4回生による就職体験談に加え、参加学生とのディスカッション、内定者とOB・OGの方を囲んでの懇談会などが行われました。懇談会では、就職活動を控えた3回生たちがOB・OGの方からの確かなアドバイスを受けたことで、就職活動への不安や疑問が解消され、気持ちも喚起させられたようでした。これから臨む就職活動に大いに役立つ懇談となりました。

今回の交流懇談会には、在 student で組織するAPU校友会実行委員のメンバーがスタッフとして参加しました。今後実行委員会では、こうした就職支援のイベントを主催していく予定です。

世界報道写真展2004

10月28日より11月19日まで、APUコンベンションホールにて、「世界報道写真展2004」が行われました。「世界報道写真展」は、オランダのアムステルダムに本部を置く世界報道写真財団が、前年の1年間に世界の報道写真家によって撮影された世界中のニュース写真を集め、コンテストを行い、その入選作品を展示するものです。

47回目を迎えた2004年度のコンテストには、124カ国・地域、4,176人の写真家から、6万点を超える応募があり、各部門での入賞作品が決まりました。世界報道写真大賞にはジャンマルク・ブジュ氏の「ナジャフ近郊の戦争捕虜収容所で4歳の息子を抱きしめるイラク人男性」の写真が受賞しました。

この写真展は、日本全国5ヶ所を巡回して開催され、APUでの開催は2000年・2003年に続き、3度目の開催

となりました。会期中には、2,702名の方々が写真展を訪れました。入場者アンケートには、「写真にリアリティがあり、ニュースで見る映像より生々しい感じがする」「あらゆる感情に溢れていた。自分は何をすべきか、考えた」など、多くの感想が寄せられました。



Topics on APU

Multicultural Week

APUでは、2003年からMulticultural Weekを実施しています。これは、春に行われているアジア太平洋言語ウィーク（韓国語、中国語、ベトナム語、タイ語、マレー・インドネシア語、スペイン語）以外に、APUのマルチ・カルチュラルキャンパスを活かした異文化理解、そして国内学生・国際学生の相互理解を深める取り組みとして、行っているものです。

今年度最初の取り組みとして、11月18日から2泊3日のMulticultural Campを別府市の少年自然の家おじかで行いました。キャンプには、約90名の学生が参加し、グループ

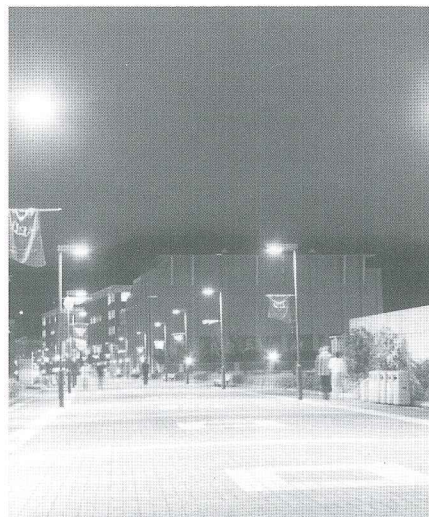


ごとのカレー作り・ハイキングのほか、スポーツやアイスブレイキングゲームを通して交流を行いました。参加者たちからは「初めは期待の半面、不安があったが、3日間を終え本当に参加してよかったと思う。キャンパスライフでは絶対に経験できないことがたくさんあった」「期待通り、本当に国籍、年齢を問



わず交流できた。単に話をするだけでなく、国の歴史まで語り合った。『今度あなたの国に行くね』とか『家に泊まりに来て』、と言える仲間を持てた』、といった感想が聞かれました。

12月から1月にかけては、スリランカ・ウィーク、オセアニア・ウィーク、インド・ウィーク、アフリカ・ウィークが行われ、それぞれの文化が披露されます。



立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数

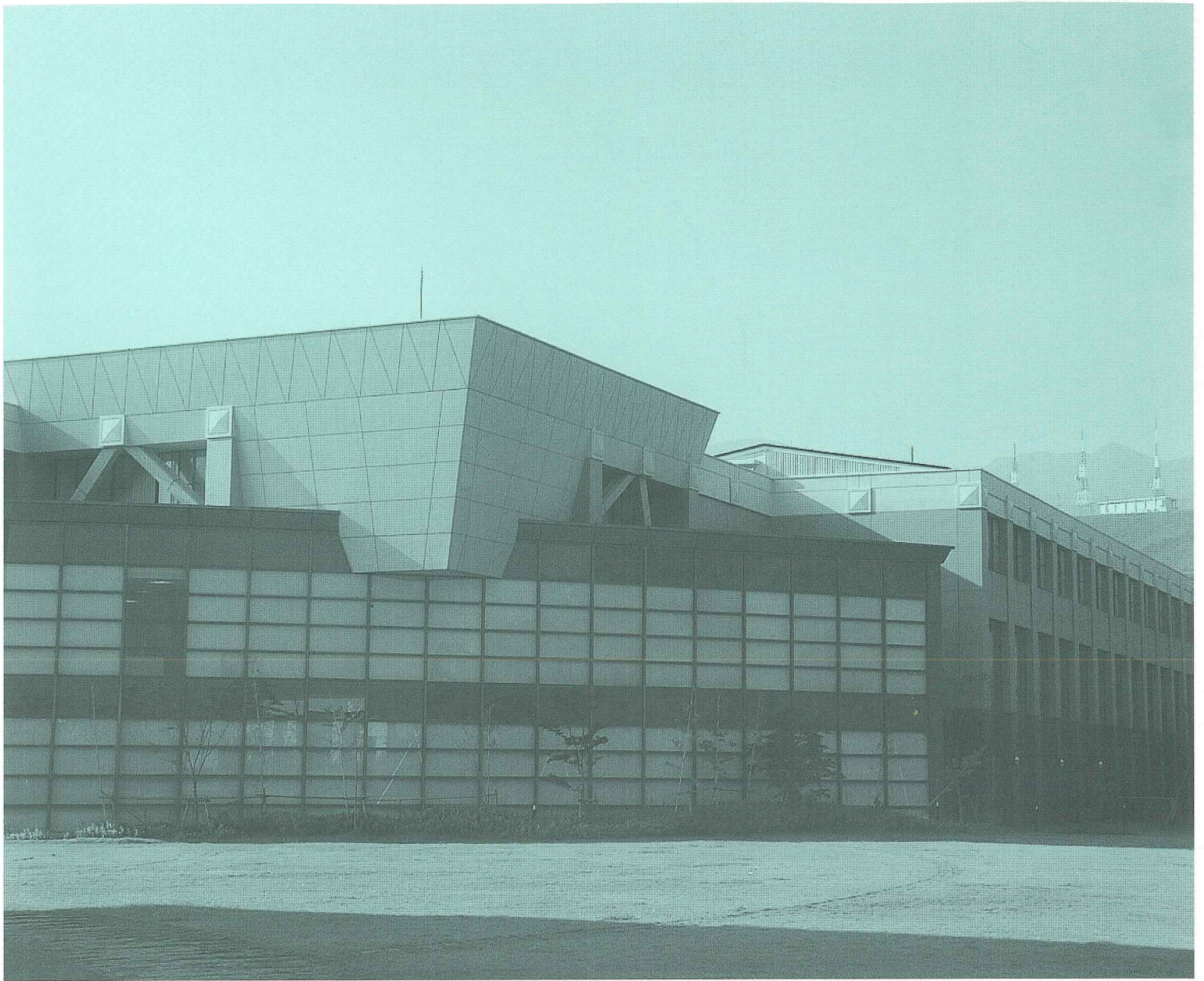
2004年11月1日付

	国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計
アジア	韓国	438	1	439
	中国	294	34	328
	台湾	141	2	143
	ベトナム	106	22	128
	インドネシア	103	11	114
	タイ	88	5	93
	スリランカ	60	1	61
	インド	47	10	57
	マレーシア	23	12	35
	モンゴル	19	6	25
	ネパール	19	1	20
	フィリピン	13	7	20
	ミャンマー	8	11	19
	バングラデシュ	12	4	16
	パキスタン	14	0	14
	シンガポール	8	4	12
	ラオス	7	1	8
	カンボジア	6	0	6
	小計	1,406	132	1,538
	中東	イラン	1	2
ヨルダン		2	1	3
トルコ		1	1	2
サウジアラビア		1	0	1
シリア		1	0	1
小計	6	4	10	
アフリカ	ケニア	26	0	26
	ガーナ	12	2	14
	ウガンダ	9	1	10
	ナイジェリア	8	1	9
	カメルーン	4	0	4
	マリ	3	1	4
	エチオピア	3	0	3
	ザンビア	2	1	3
	コートジボアール	2	0	2
	マラウイ	2	0	2
	スーダン	1	1	2
	エジプト	1	0	1
	モロッコ	1	0	1
	南アフリカ	0	1	1
	ジンバブエ	1	0	1
	小計	75	8	83

	国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計	
北・南アメリカ	アメリカ合衆国	31	6	37	
	カナダ	12	1	13	
	メキシコ	1	5	6	
	ボリビア	2	0	2	
	エクアドル	2	0	2	
	ブラジル	1	0	1	
	コスタリカ	1	0	1	
	ジャマイカ	0	1	1	
	ペルー	1	0	1	
	トリニダードトバゴ	1	0	1	
	小計	52	13	65	
	オセアニア	オーストラリア	10	2	12
		バブアニューギニア	6	1	7
ニュージーランド		4	0	4	
サモア		3	1	4	
トンガ		0	2	2	
パラオ		1	0	1	
小計		24	6	30	
ヨーロッパ	リトアニア	11	0	11	
	ブルガリア	8	2	10	
	エストニア	7	0	7	
	イギリス	6	0	6	
	ウズベキスタン	6	0	6	
	ハンガリー	5	0	5	
	ルーマニア	2	1	3	
	ロシア連邦	3	0	3	
	ウクライナ	3	0	3	
	フィンランド	2	0	2	
	ドイツ	2	0	2	
	チェコ	1	0	1	
	グルジア	1	0	1	
	ラトビア	1	0	1	
	モルドバ	0	1	1	
	オランダ	1	0	1	
	ノルウェー	1	0	1	
ポーランド	1	0	1		
スロバキア	1	0	1		
スペイン	1	0	1		
スウェーデン	1	0	1		
小計	64	4	68		
国際学生(留学生)合計		1,627	167	1,794	
国内学生合計		2,322	16	2,338	
APU学生総計		3,949	183	4,132	

注) 国際学生とは、在留資格が「留学」である学生をいう。
国内学生には、在留資格が「留学」ではない在日外国人を含む。





APU 立命館アジア太平洋大学

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1 TEL.0977-78-1114 <http://www.apu.ac.jp/>